場所　神奈川県横浜市

面積　1.59ha



活動目的

郷土種を主体とした植栽を施した緑地を成熟させ、柏尾川や舞岡公園等の周辺環境に生息・生育する生物のハビタット、移動経路として地域の生物多様性の向上を目指すとともに、生物との触れ合いや癒しの場、雨水浸透等の生態系サービスの恩恵を地域に還元することを目的とする。

サイト概要

研究開発施設である中外ライフサイエンスパーク横浜(2022年竣工)の施設コンセプトは「Green Innovation Village～緑の中に点在する最先端創造研究所」で、敷地内には緑を多く取り入れて地域社会との調和を図っている。本サイトは当施設の外構緑地で、西敷地の①地域開放緑道・②南緑化、東敷地の③西緑化・④東緑化、⑤スパイン屋上緑化、⑥コチドリ広場の6つのエリアで構成されている。①・②・③は戸塚区の花である桜や地域在来性の樹木を主体とし、要所に訪花性昆虫等の採蜜・採餌を考慮した低木・草本を植栽している。④は開放的な低茎～シバ草地である。 ⑤は国内在来種を使用し、訪花性昆虫の採蜜、いやし・美観を考慮した植栽としている。 ⑥はコチドリの産卵環境として礫地を整備した。

土地利用の変遷

旧版地形図より、西側敷地は昭和6年（1931年）まで、東側敷地は昭和20年（1945年）まで水田として利用されており、以降はそれぞれ工場用地として利用されていたことを確認。 2022年10月に中外ライフサイエンスパーク横浜が竣工し、敷地内の緑地（本サイト）の維持管理を継続している。

サイト周辺の環境

周辺は都市的土地利用が卓越しているが、丘陵地のまとまった緑地が1～2km圏内に点在しており、オオタカ（環境省NT）等が生息している。本サイトは境川水系・柏尾川に隣接しており、ミズキンバイ、ミナミメダカ（ともに環境省VU）等の希少な動植物が生息・生育している。

アピールポイント

敷地西側は敷地境界沿いに長さ約300mを超える大規模な緑地帯として整備し、前面道路の歩行者や近隣の建物に対して圧迫感を低減させると同時に緑豊かな景観形成を施した。また緑地帯には地域にも開放された遊歩道を設け、地域アメニティ向上への貢献も図っている。

地域の都市基盤に貢献するグリーンインフラ（雨水集水浸透施設、レインガーデン）など、地域に開かれた次世代型研究所を目指している。

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトは、生物多様性の向上を目指して地域在来の植物を中心とした植栽がなされた緑地で、低茎・中茎草地と低木、中高木が組み合わさった階層的な植生で構成されている。また、コチドリのハビタットとして礫地（⑥コチドリ広場）が整備されている。本サイトで、神奈川県レッドリストに記載されている植物1種（植栽を除く）、鳥類1種、昆虫類2種が確認されている。

【確認された希少種】

●植物（※植栽種は除外）：（2024年モニタリング）

・コヒロハハナヤスリ（*Ophioglossum petiolatum* 胞子体[栄養葉・胞子葉]、神奈川県 準絶滅危惧、③東敷地 西緑化）

→東敷地 西緑化の低茎草地の10m四方範囲で群生を確認（コチドリ広場の周辺の低茎草地でも群生を確認）

●鳥類：（2024年モニタリング）

・コチドリ（*Charadrius dubius* 、幼鳥・成鳥 神奈川県 繁殖期・注目種、⑥コチドリ広場）

→繁殖期に礫地および周囲に、成鳥1個体が執着的に滞在しているのを確認（2024年6月）
　礫地の周囲の草地でコチドリの幼鳥1個体を確認（2023年5月）

●昆虫類：（2024年モニタリング）

・ショウリョウバッタモドキ（*Gonista bicolor*、 幼虫・成虫、神奈川県 要注意種、①地域開放緑道・④東敷地 東緑化）

　→春季に④東敷地 東緑化で幼虫1個体を、夏季に西敷地の①地域開放緑道で成虫（♂）1個体を確認

・ヒロバネカンタン（*Oecanthus euryelytra* 、幼虫、神奈川県 準絶滅危惧、⑤スパイン屋上緑化）

　→夏季に西敷地の⑤スパイン屋上緑化で幼虫3個体を確認



写真の説明：ショウリョウバッタモドキ（成虫）



写真の説明：繁殖期にコチドリを確認

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

コチドリの繁殖を考慮して設けた礫地（20m四方、東側敷地内）で、繁殖期にコチドリが継続的に確認されており、営巣が行われている。周囲・隣接する草地を中心に、コチドリの避難場所・採餌環境、およびにバッタ類等のハビタットとして、多様な草地環境を創出する。また、近隣の緑地や柏尾川に生息している鳥類・トンボ類等の採餌環境、未成熟期のハビタットとして利用されている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

〇礫地と周囲の低茎・中茎草地（⑥コチドリ広場）　→コチドリの繁殖環境として利用されている

・鳥類：コチドリ（*Charadrius dubius* 成鳥[2023-2024]、幼鳥[2023]、孵化、孵化・ハビタット（礫地）への執着行動、神奈川県 繁殖期・注目種）



写真の説明：コチドリの幼鳥



写真の説明：コチドリ広場（礫地）

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】
本サイトは、横浜市水と緑の基本計画の「水と緑の回廊像」における緑の軸・河川の軸の結節点に位置する。柏尾川と隣接し、周辺には舞岡公園、戸塚公園、冨塚八幡緑地、実方塚などのまとまりのある緑地が残存している。生物の移動・休息などに利用され、柏尾川を軸としたコリドー、飛び石状コリドーを補完している。

【主な植生】
（1/25,000植生図　戸塚）
・周囲の植生凡例：市街地、緑の多い住宅地、工場地帯
・残存する緑地の植生凡例：オニシバリーコナラ群集、ヤブコウジースダジイ群集、コナラ群落、竹林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、畑雑草群落、水田雑草群落　ほか

【隣接・接続する保護地域等】
（横浜市水と緑の基本計画　流域ごとの推進計画⑥柏尾川流域）
・河川の軸：柏尾川
・保全施策により地区指定されている樹林地・都市公園等：舞岡公園、戸塚公園、冨塚八幡緑地、実方塚など
（県指定鳥獣保護区）舞岡公園、明治学院

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】
・近隣の舞岡公園で生息が確認されている鳥類やチョウ類の飛来・定着を目指して、地域在来性を考慮した多種多様な構成の植生を創出している。（例えば、ムラサキシジミ幼虫の食草となるブナ科常緑樹）
・本サイトは、樹林地等の緑地をつなぐ飛び石状のコリドー、柏尾川を移動する生物の中継地、水域と陸域の緑地を生活史の中で行き来する生物（トンボ類等）のハビタットとしての役割を果たし、エコロジカルネットワークの形成を補完することで計画地周辺の生物多様性の向上に貢献している。
・柏尾川および河川敷の草地から飛来・移動してきたトンボ類（ex．アジアイトトンボ）、チョウ類（ex．ウラナミシジミ）、バッタ類（ex．ショウリョウバッタモドキ）などが確認されており、一部は繁殖も確認されている。



引用・転載：横浜市水と緑の基本計画　流域ごとの推進計画⑥柏尾川流域



写真の説明：柏尾川から飛来したアジアイトトンボ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
●生物多様性保全 「外来種対策」 ・生物多様性を向上させ、生態系サービス持続的に享受していくために、外来種の選択的な駆除・抜き取り等を実施する。 ・生物相モニタリングで確認された外来種のうち、重点対策外来種・総合対策外来種（生態系被害防止外来種リスト）の該当種、および分布拡大が著しい種を駆除・抜き取り対象とし、その他は生態系への影響が懸念される場合に対策を講じる。 「希少種・重要種の保全対策」 ・コチドリの営巣環境である礫地を長期に保全・維持し、繁殖状況等を継続的にモニタリングするほか、ほかの箇所にも同等のハビタットを拡大する。 ・コチドリ広場の周囲および隣接地（東敷地 東緑化 等）における植栽管理の頻度、刈り高の調整、裸地（まばらな草地）整備などにより、草地性の昆虫（ショウリョウバッタモドキ等）のハビタット、コチドリ等の身隠し・採餌環境となる多様性のある草地を創出する。 ・モニタリングで記録された希少種・重要種の生息・生育地点を地図化し、活動・植栽管理時における干渉の回避を図る。 ●生態系サービスの活用 「環境教育イベント・プログラムの実施」 ・これまでも実施している自然観察・体験等を地域の保全活動団体と協働で実施し、地域住民・社員等の環境教育の機会を提供する。 ・礫地・草地等の生物多様性の向上に配慮した箇所で、社員研修の一環で実施する。 ・経年的な生物多様性の変化を把握するために、モニタリングツールを利用した植物・昆虫類調査を社員・地域住民等の多様な主体の参加により実施する。	**【モニタリング対象】** ●植物相（維管束植物） ●動物相（哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類） ●希少種モニタリング（コチドリの営巣・繁殖状況） **【モニタリング場所】** ●全相モニタリング：全域 ●植生・昆虫相経年調査：東側敷地・保全対策箇所（刈り残し草地等）で実施 ●希少種モニタリング：東側敷地・コチドリ広場 **【モニタリング手法】** ●植物相：任意踏査、植生調査　●哺乳類：痕跡調査　●鳥類：ポイントセンサス・任意踏査　●爬虫類・両生類、昆虫相：任意踏査　●希少種モニタリング：対象種の行動観察・痕跡調査 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** ●全相モニタリング：2024年（通年）に実施・1回/5年（次回更新前） ●植生・昆虫相調査：保全対策箇所における活動効果を確認・1回以上/毎年 ●希少種モニタリング：対象種の生態に合わせて実施・1回以上/毎年 **【モニタリング実施体制】** 活動・モニタリングの実施主体：中外製薬株式会社 ESG推進部 環境グループ ●全相モニタリング：専門家の指導の下で計画、調査会社に実施委託 ●植生・昆虫相調査：専門家の指導の下、社員研修等の一環で実施 ●希少種モニタリング：専門家の指導の下、社員研修等の一環で実施